

## データ放送を活用した【防火・防災・救急】ページの作成

那覇市消防本部（沖縄） 与儀 真也

### 1 伝えたい

市民1人1人が【防火・防災・救急】に対し興味をわかせる、身近にある消防用設備等や、地震等に対する防災のこと、救急でいえばAEDの使用方法や心肺蘇生の方法を知ってもらう必要があるが、現状はそうではありません。

たとえば、共同住宅等で自動火災報知設備のベル鳴動で出動した際、私達消防隊が現場に到着しても、住民のほとんどの方は避難せず一部の方だけが避難しているのが現状です。

また、消火器は通行の邪魔になるということで押入れ等にしまい、屋内消火栓については、ホース格納箱の前に荷物を置き、火災のとき屋内消火栓が使用できない状況など、消防用設備等の維持管理がなされていないことがあります。

さらに、津波警報が発令されているにも関わらず、小さいお子さんをつれて家族みんなで海岸まで津波を見に行ったり、救急では家族が心肺停止状態でも救急隊が現場到着するまで、心肺蘇生など応急処置を行っていないのがほとんどです。

したがって、定期的な消防・防災訓練、応急手当講習会などを実施していてもまだまだ【防火・防災・救急】に対する意識は低いのが現状であります。

また、高齢化社会・核家族化・地域疎遠社会の到来で、お年寄りにとっては、近くに相談する人もいない、パソコンなども操作できないといった中、主な情報源は、新聞やテレビ・ラジオになります。

そういった方1人1人に対してもより身近に、わかりやすく、簡単に【防火・防災・救急】のことを伝えたい！そこで私が提案するのがテレビのデータ放送を活用した、【防火・防災・救急】ページを作成することです。

これはこういったページかといいますと、消火器などの消防設備の取り扱い方や、AED・心肺蘇生の方法、AED設置場所の確認・熱中症対策、台風などの災害時における地域の避難場所や、高台避難場所を確認できるよう

にし、子供達にもわかりやすいようにキッズページを作成します。

※ 【防火・防災・救急】 ページについては、〔資料 3〕を参照。

## 2 現状とデータ放送を活用した際の違い！

現状とデータ放送を活用した際の状況を、下記の通り比べてみました。

※ 現状を（現）・データ放送を（デ）で表示。

| 比較その 1 |                                                                                                                                                                                           |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| （現）    | 自宅で家族が病気などで倒れ心肺停止になった場合、119番通報を行います。が、心肺蘇生がわからない方には、消防（指令員など電話をとった職員）が電話による口頭指導で心肺蘇生の方法を説明します。<br>しかし、ただでさえ家族が目の前で倒れ頭が真っ白になっている状態で口頭指導だけだと、うまく伝わらず、救急隊が現場に到着するまで心肺蘇生など何も処置がされていない場合があります。 |
| （デ）    | データ放送を活用すれば、テレビで心肺蘇生などの動画を見ながら応急手当を確認・実施する事ができるので、目の前で家族が倒れ、頭が真っ白になっている方でも、少しは落ち着いて心肺蘇生を行うことができ、救命率を上げることに繋がると考えます。                                                                       |

| 比較その 2 |                                                                                                       |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| （現）    | インターネットを活用することで、応急手当などの情報を調べることは簡単にできますが、パソコンのない家や、パソコンに不慣れな方にとっては、調べるのが難しい場合があります。                   |
| （デ）    | テレビはほとんどの家庭にあり、データ放送はボタンを押すだけの簡単な操作で確認する事ができます。<br>お年寄りでもお子さんでも簡単に操作ができます。<br>※ 操作方法については〔資料 1・2〕を参照。 |

| 比較その 3 |                                                                                                                                                                                                          |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (現)    | 応急手当や消火器などの講習会を行った際、「自宅に帰って家族や友達にも教えて下さい」と、消防から受講生に対し指導していますが、本人の口頭説明やパンフレットだけでは、家族や友達に対してはなかなか伝わりにくいと思われます。                                                                                             |
| (デ)    | <p>データ放送があれば、自宅に帰って家族と一緒にデータ放送を使用し動画で確認できるため、家族に伝えやすく、かつ、わかりやすい。</p> <p>例えば30人に講習会を行い、全員が3人家族であった場合、講習会を受講した方が家族に対し、データ放送の動画を見て補足説明を行ったとすると、90人に教えたことと同等の効果があるので、1回の講習会で、より多くの方に伝わっていくことが期待できると思います。</p> |

### 3 データ放送のメリット

- ・ 事業所や住宅など人が生活する場所にはテレビがあります。自宅で家族と、会社の仲間うちで、あるいは空いている時間を利用して気軽に確認できるので、【防火・防災・救急】の知識向上を図ることができます。
- ・ 応急手当などを教えても、人は時間の経過とともに記憶が薄れてしまいますが、暇な時に身近にあるテレビですぐに再確認できます。
- ・ データ放送にQRコードを作成する事により、携帯電話に保存ができ、テレビが近くにない時には、携帯電話に保存した動画を見ながら心肺蘇生を行うこともできます。
- ・ データ放送に【防火・防災・救急】ページが作成され、デジタル放送に対応したテレビがあり、リモコンに「dボタン」の機能さえあれば、視聴者に経済的負担は一切ありません。
- ・ 教育現場で週1回5分でもいいので、朝の会等で活用してもらうことにより、子供の頃から【防火・防災・救急】の知識向上を図ることができます。また、子供から親に、孫からおじいちゃんおばあちゃんに広まっていくことが期待できます。

#### 4 実際にできるのか？

この機能について、実際にできるものかと疑問に思い、関係機関に確認しました。

役場や県等では、すでにデータ放送を活用したページを作成している自治体もあります。

作成した自治体担当者に確認したところ、現時点では地域や自治体からの情報を、静止画や文字で配信しており、動画配信は行っていないとのことでした。

【防火・防災・救急】ページを作成するうえで、動画配信は欠かせないものと考えているので、実際に動画配信が技術的に可能かを地元のテレビ局数社に確認したところ、『現在の技術であれば、動画配信はできる。』と回答をいただきました。また、これまで記載してきた、【防火・防災・救急】ページについて、私の考えを伝えたところ、各社から『容量等の問題はあるが、作成できる。』と回答をいただき、さらに『地域に貢献できるので、依頼があればぜひ協力したい、この意見は単体の消防だけではなく、県や国・消防全体からテレビ局に対して投げかけてください。』と意見をいただきました。

【防火・防災・救急】ページ導入は、県や国・消防全体で意見をまとめ、テレビ局に対して働きかけていくことで実現可能となります。

#### 5 問題点及び打開策

すでにデータ放送を活用している事例もあり、作成することはできるが実際に作成した場合にいくつかの問題点がでてくるが、私なりに打開策を考えてみました。

|     |                                                                           |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|
| 問題点 | データ容量に限度があるので、データ放送の内容を精査し作成してみないと容量がわからない。                               |
| 打開策 | 全てを動画にするのではなく、文字や静止画を活用して、見た人が理解（確認）がしやすいようにする。（応急手当の実施方法は、できるだけ動画が望ましい。） |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題点 | コストはどのくらいかかるか？莫大なコストがかかるのでは？                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 打開策 | <p>コストについて、実際に作成した2つの自治体に確認しました。</p> <p>A自治体は、テレビ会社が地域に貢献したいということで、作成料及び維持費は全て〔無料〕でおこなっているそうです。</p> <p>B自治体は、作成料は〔無料〕、維持費は現在試験中のため〔無料〕であるが、平成25年度から本格的に行う予定で、維持費が月6万になる予定とのことです。</p> <p>この「月6万円」を目安にすると、国全体又は県全体で行えば、市町村単独でおこなうよりさらに安価になることが期待されます。</p> <p>実際テレビでCMを流す際は、莫大なコストがかかっており、それを考えても、上記のB自治体のように月6万円でテレビの機能を活用して維持管理ができれば、コストに比べかなり高い宣伝効果が期待され、テレビCMやパンフレットなどを作成するよりもずっと安価で効果的な広報活動に繋がると考えられます。</p> |

|     |                                                                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題点 | 「dボタン」はリモコンによって場所が違ったり、ボタンが小さいため、高齢者等にももっとわかり易くする必要がある。                                                                                                                                                   |
| 打開策 | <p>業者との調整になるが、例えばリモコン自体に消防ページボタンを作り、1回ボタンを押すだけで【防火・防災・救急】ページを確認できるようにする。</p> <p>また、ボタンに色をつけたり形を変えたりするとよりわかり易くなると考えます。</p> <p>高齢化社会が進む日本にとって、高齢者にも操作しやすい物を作っていく必要があります。</p> <p>※ リモコンのボタンについては〔資料4〕参照。</p> |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題点 | 市民1人1人に、データ放送の【防火・防災・救急】ページがあることを伝える必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 打開策 | <p>市民1人1人に対しパンフレット（チラシ等）を配布することは、どうしてもコストがかかってしまいます。</p> <p>そこで、できるだけコストをかけず、市民1人1人に対しリモコンの操作の仕方・データ放送の【防火・防災・救急】ページを知ってもらう、それを伝える手段としてテレビ局の協力が必要になってきます。</p> <p>現在、番組を見ている時に、『dボタンを押して番組概要を確認しよう！』とテロップが画面に映しだされます。この機能を活用し、ニュース番組で火災や地震・救急に関する事を伝える際に、テロップを画面に映し出すのです。</p> <p>例えば、火災の映像を流す場合は、『dボタンを押して火災を防ぐ方法を確認しよう！』。夏によくある熱中症のニュースでは、『dボタンを押して熱中症対策を確認しよう！』といったテロップを画面に映し出します。</p> <p>実際の映像を見てももらう事により、テレビを見ている人に対して災害への注意奮起を促すとともに、【防火・防災・救急】ページの存在やデータ放送の見方を伝える事ができます。</p> <p>※ テロップの記載については〔資料5〕参照。</p> |

## 6 おわりに

現代社会は、建築物の複雑多様化・高深層化が進み、そこで火災が起きれば大惨事になり、また、地震や台風など自然災害の大規模化、さらに高齢化社会による災害出動件数の増大など、抱える問題が今後増加することが思慮されます。

そのような災害がなければいいのですが、現実には防ぎようがないのが事実です。しかし、市民自身が【防火・防災・救急】の知識を身につけることで、その被害を最小限に抑える事ができるのもまた事実だと考えます。

【防火・防災・救急】情報については、消防職員が市民1人1人に対して、これからも普及広報に努めなければならないが、「火災・救助・救急」等の

災害出動、出動に備えるための訓練、立入検査等他の業務もある状況のなか、正直厳しい状況であります。

しかし、それでも伝えなくてはいけない！そこで、このデータ放送を活用した【防火・防災・救急】ページの作成は、私達の生活にとって必ず役立つものになると確信しております。

ただ1点だけ、どうしても私の中で解決できない課題があります。

それは、視覚に障害のある方でも簡単に操作でき情報を蓄える事ができる機能を作成していく事です。この課題については、皆さんと意見を出しあい解決していく必要があります。

日本国民1億2757万人（※）全ての方が、確認でき知識を蓄えることができる【防火・防災・救急】ページを作る、それが私の考えであり願いでもあります。

※ 総務省統計局、人口推計（平成24年8月月報）参照

〔資料1〕

＜データ放送の見方＞

- (1) テレビの電源を入れます。



- (2) 次にテレビがついたことを確認し、下記の写真の通りリモコンにあるdデータボタン又はデータ連動ボタンを押します。それによりデータ放送ページに移行します。



- ① データ放送ページで上下左右のコマ移動をさせます。  
② 決定ボタンを押すことにより、見たい項目を決定します。

【データ放送】ページでは上記①・②のボタンのみ使用となります。

〔資料 2〕

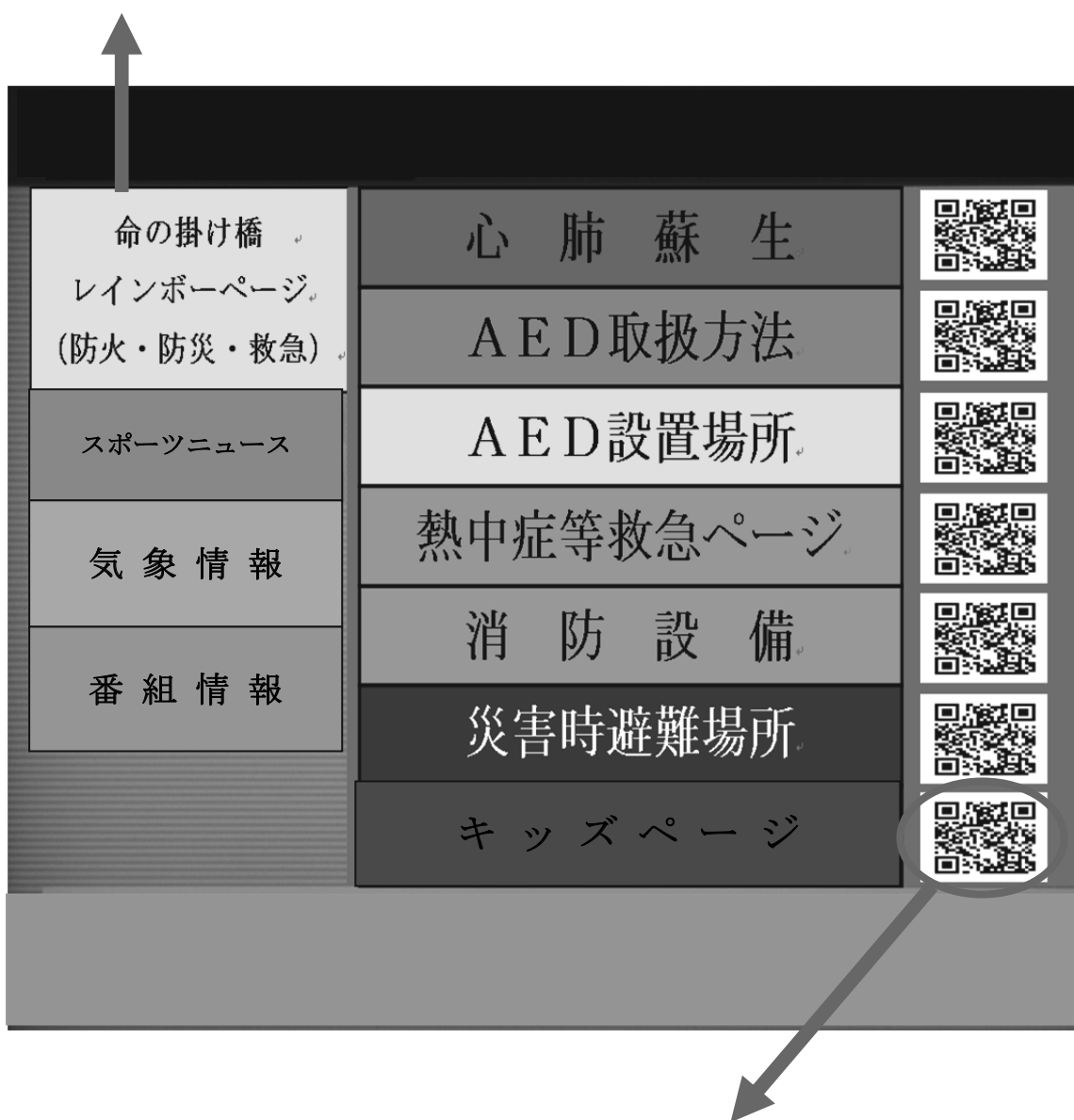
(3) データ放送を確認することができます。

※ このことからわかるように、2回ボタンを押すだけでデータ放送のページに行くので、ご高齢の方でも小さいお子さんでも簡単に操作ができます。



〔資料3〕

- ・資料2のデータ放送に【防火・防災・救急】ページを作成します。  
※実際に心肺蘇生等を見るためには最低3回ボタンを押せば確認することができます。
- ・一番上に【防火・防災・救急】ページを作成することにより、緊急時により早く確認することもできます。



【QRコード】

(携帯電話の機能を活用し、携帯にデータとして登録、携帯電話でいつでも確認できるようにします)

〔資料4〕

- ・ d ボタンをわかり易くするため消防ページとし、形や色も変えます。



〔資料5〕

- ・火災等の災害関係のニュースを流すさいに、テロップを使用しdボタン及び【防火・防災・救急】ページの事を伝えます。



---

## 一般財団法人 全国消防協会

郵便番号 102-8119

東京都千代田区麹町一丁目6番2号

アーバンネット麹町ビル5階

電 話 (03) 3234-1321(代)

FAX (03) 3234-1847

---

再生紙を使用しています。

※禁無断転載